

平成 20 年 1 月 25 日

各 位

不動産投信発行者名

東京都港区六本木六丁目 10 番 1 号  
六本木ヒルズ森タワー

ジャパン・ホテル・アンド・リゾート投資法人

代表者名 執行役員

鈴木 博之

(コード番号：8981)

資産運用会社名

ジャパン・ホテル・アンド・リゾート株式会社

代表者名 代表取締役

鈴木 博之

問合せ先 管理本部長

板橋 昇

TEL. 03-6439-0333

2007 年 12 月度の月次開示に関するお知らせ

ジャパン・ホテル・アンド・リゾート投資法人（以下「本投資法人」といいます。）の 2007 年 12 月度の月次総売上げ並びに宿泊部門の客室稼働率、ADR 及び RevPAR を下記のとおりお知らせいたします。本投資法人は変動賃料の支払いを伴うホテルであって、ホテル賃借人から開示について同意をうけることができたホテルについて継続的に月次開示をいたします。

## 記

ホテル名/項目	客室稼働率 (%)	ADR(円)	RevPAR(円)	売上高(百万円)
神戸メリケンパークオリエンタルホテル	81.4%	18,930	15,404	631
オリエンタルホテル 東京ベイ	81.2%	22,085	17,940	659
なんばオリエンタルホテル	85.0%	11,292	9,594	173
ホテル日航アリビラ	61.1%	23,660	14,459	367
オリエンタルホテル広島	62.2%	8,667	5,395	188

上記開示に関するジャパン・ホテル・アンド・リゾート株式会社（資産運用会社）からのコメント：

神戸メリケンパークオリエンタルホテルについて

宿泊部門について、神戸ルミナリエが実施期間を短縮した影響により、稼働率・ADR が前年同月を下回り、同部門の売上については前年同月を下回りました。レストラン部門においては昼食の集客が低迷したことにより前年同月を下回りましたが、婚礼部門においては件単価向上に成功したことにより前年同月を上回る売上となり、結果として、ホテルの総売上は前年同月を上回る水準となりました。

オリエンタルホテル 東京ベイ（旧：新浦安オリエンタルホテル）について

宿泊部門について、ディズニーランドが首都圏外からの集客数を伸ばしたことが市場全体の宿泊需要に好影響を与えこと、並びに代理店商品の価格施策が成功したことにより、ADR が上昇し、前年同月を上回る売上となりました。レストラン部門においても、クリスマス商品の企画成功により、前年同月を上回る売上となりました。宴会部門でも、婚礼宴会の好調さが持続し、忘年会需要も確実に取り込んだこ

とから前年同月の売上を上回りました。結果として、ホテルの総売上も前年同月を上回る結果となりました。

#### なんばオリエンタルホテルについて

宿泊部門について、クリスマス需要の拡大とアジア諸国からの観光需要の増加により、市場全体が好調に推移したこと、並びに、これらを見越した各種販売施策の成功により、客室稼働率・ADR 共に上昇し、ホテル全体の売上は、引続き前年同月を上回る結果となりました。

#### ホテル日航アリビラについて

宿泊部門について、週末・クリスマス期間の価格施策の成功によりADRは前年を上回りましたが、平日の集客の伸びが弱かったことにより稼働率が前年を下回り、前年同月を下回る売上となりました。レストラン部門は宿泊人数が減少したことにより前年を下回りました。また宴会部門では一般宴会が修学旅行を中心に前年を下回りましたが、婚礼の獲得に成功し、婚礼売上は前年を上回る水準となりました。このようなことから、ホテルの総売上は、前年同月を下回る結果となりました。

#### オリエンタルホテル広島について

宿泊部門について、繁忙期において、予約状況及び見込みについての的確な判断のもとに、客室の値段を設定することに成功した為、客室稼働率・ADR 共に前年同月を上回り、前年同月を上回る売上となりました。レストラン部門においては、ほぼ全ての店舗で客数・客単価が向上し、宴会部門においても、婚礼売上が件単価上昇により増加した為、両部門共に前年同月を上回る売上となりました。結果として、ホテルの総売上は前年同月を上回る結果となりました。

- 
- 注 1) 上記のコメントは運用会社が賃借人から提供を受けた情報に基づいて作成しており、あくまでおおむねの傾向についての参考情報として記載するものにすぎません。コメント中に記載された数値・情報については、監査等の手続を経ているものではなく、運用会社による独自の検証を行ないうる性質のものでなく、個々の数字・内容の正確性・完全性について保証できるものではありませんのでご注意ください。
- 注 2) 各月の数字については監査等の手続を経ないため、各月を合計した金額は、後に提出する半期報告書、有価証券報告書に記載される6ヶ月間及び年間の売上合計と合わない場合もあります。また、各月の売上についても、半期報告書、有価証券報告書に記載される各月の売上と相違する場合があります。
- 注 3) ADR : 平均客室販売単価 (Average Daily Rate) をいい、一定期間の宿泊部門売上高合計 (サービス料を除きます。) を同期間の販売客室数合計で除した値をいいます。
- 注 4) RevPAR : 販売可能客室数当たり宿泊部門売上 (Revenue Per Available Room) をいい、一定期間の宿泊部門売上高合計を同期間の販売可能客室数合計で除したものをいい、ADR と客室稼働率の積にて計算される数値と同値となります。
- 注 5) 客室稼働率については小数点第2位を、ADR、RevPARについては小数点第1位を四捨五入して記載しています。売上高については、百万円未満を四捨五入して記載しています。

以上

\* 本投資法人のホームページアドレス : <http://www.jhrth.com/>